

## 平成28年度第1回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会

1 開催日時・場所 平成28年5月12日(木)東北森林管理局 大会議室

2 出席者【委員】 黒瀧委員、高橋委員、林委員、守屋委員、佐々木委員、安部委員、小野寺代理

### 3 検討結果

現時点では特に供給調整の必要はないが、一部地域において合板用原木の流通が滞っている現状が見受けられることから、必要に応じて販売時期を調整するなどの対策が必要。国有林には、引き続き価格あるいは需要の動向を注視していただきたい。

### 4 主な意見

#### 1)国産材需給

- ① 製材用原木は、民有林の出材がピークとなり、供給過多の状態にある。柱用3mについては引き合いがあるが、他の規格の丸太や大径木は行き先を失っている。  
スギ原木の価格は値下がり傾向弱含みとなっているが、カラマツ原木は依然強気の高値で推移している。
- ② 住宅建築では、地場の大工・工務店が受注に苦勞している反面、ハウスメーカーは堅調な動きを見せている。昨年同様に春需が遅く、4月中旬に入りようやく見積りの動きが見られてきた。
- ③ 集成材は、スギ集成管柱への需要が高まっており、生産が追いつかない状況が続いている。
- ④ 国産合板は、生産量・出荷量とも大筋堅調。フロア台板用合板や型枠合板の生産比率が増加傾向にある。
- ⑤ 全国的には合板の生産量は増加傾向となっており、原木消費量も増加しているが、秋田県内の大型合板工場火災の影響で、青森県内では合板用スギ原木の流通が滞っている。
- ⑥ チップ用原木については、バイオマス発電用と製紙用が競合し、価格は上昇傾向となっている。バイオマス用燃料と製紙用原料のポータレス化が顕著になっている。

#### 2)他地域への輸送・輸出

- ① 西日本は天候も良く出材状況も良かったことから、合板工場は原木を潤沢に持つており、西日本への移出は難しい状況にある。
- ② スギ低質材の原木輸出については、バイオマス発電用と製紙用の国内需要に大きな影響があることから、現在は見合わせている。
- ③ 中国の原生林伐採禁止による木材不足を埋めているのはロシアの原木のようだ。
- ④ 台湾向けの輸出は新政権が発足した後に、台湾経済情勢を見極めてから再開するかどうか検討中。中国向け輸出は新しい引き合いが来ている。